

第12回 3月26日セミナーリフレクション

講師：学び合う学び研究所フェロー 倉知 雪春先生

実践発表者：小牧市立味岡小学校 今野 悦子先生、

可児市立中部中学校 竹田 浩大先生

テーマ：「4月から『学び合う学び』をはじめたい人に — 実践例から学ぶ —」

今回のセミナーで“苦しむことが楽しいと思える”という考え方がとてもいいなと思いました。教材研究は楽しくのあり、大変でもあります。ですが、その大変さが多ければ多いほど、学びがあると思います。

また、小学校の授業の様子や子どもたちの様子から学ばせていただくことが多くありました。○ 子どもたちの距離感 ○ 音読は聴いてくれる人がいるから読みたくなる。 ○ 授業の仕組みづくりとクラスの雰囲気大切さ。

今回の学びを、学校・学級でも最大限に生かしていきたいです。

今年度、3年生の担任を終えて、来年度から新1年生の主任としてスタートします。今回のセミナーの学びから、新たな目標が決まりました。実践します。

「学び合う学び」をはじめるとあって、たくさんの気づきや学びを得ることができました。

- 誰も独りにしない、安心感のある学級づくり
- 「わからない、教えて」を気軽に言える関係づくり
- 教師が、一人ひとりを大切にする声掛け などなど

初めて参加しましたが、来年度も参加させていただきたいと思います。ありがとうございました。

今野先生の実践では、落ち着きのなかった1年生が、1年であれだけの集中した姿になったことが驚きでした。

ペア読みのときに、ペアの子が指で刺しながらそれを見て読んでいくという関係が、そういうすべての子が学びに向かう環境を生み出しているんだなと思いました。

竹田先生の実践では、生徒を本当に大切にしていることがよく伝わってきます。中部中の学び合いが、本当に生徒をよく育てたことが伝わってきました。

本日は、大変勉強になりました。ありがとうございました。

倉知先生、今野先生、武田先生 ありがとうございました。

今野先生は、長いこと「学び合う学び」を実践されており、沢山の経験を経て、その時々の子どもに応じた学びを創ってこられています。実は、私と今野先生は、このセミナーとはまた別の会でもご一緒させていただいています。その会に集う仲間に通じていることは、「戦略的ではない」ということです。何をどうしてどうやって授業を創ろうとか、子どもを育てようとかいう物をあまり持ち合わせていません。こんな言い方をすると今野先生には大変失礼かもしれませんが、今野先生もそんな感じではないですか？ただただ子どもたちの学びを尊重し、子どもが行きたい方向に寄り添い、一人ひとりの子どもの学びを保障していくうちに、今回見せて頂いた教室を子ども自身が創っていったのではないかと思います。ですから、「どうやって？」を今野先生にお聞きしても、なかなか明確にお応えにはならないでしょう。だからこそ、

実践を見せて頂いた私自身がそこから学んでいきたいと思えます。

今回、今野先生から大きく二つのことを学びました。一つは、「対話」についてです。低学年ということもあり、ペアを取り入れていらっしゃいました。グループの時、ペアにも様々な形態や目的があるという話題が出ました。例えば、机を向き合わせるか横に並べるかでも子どもの関係性は違ってくと。向き合わせたときは、顔や動作を見て話せます。でも二人の間にはちょっと距離があります。横に並んだときは、顔をまじまじと見ることはできないかもしれません。その代わりに、お互いの体温息遣いなど言葉や形にならないものを自然に感じあうことができます。ふと漏らした言葉、息、醸し出す空気、それらを感じる、それこそが対話だと私は思います。最近ある本で、「聞く」という漢字の語源を知りました。一般的には「門」ですから、「扉を開いて聞く」という意味があるとされます。もう一つは、「門」は神や仏への道であり、「人間を超えたものを感じる」ことを示すというのです。本当に言いたいことは言葉や形にならないことが多いし、それを感じ取るのが対話ではないかと・・・今野先生の教室の子どもたちには、どの子どもたちにも「対話」がありました。だからこそ落ち着いて学び合えるのだと感じました。

二つ目は、「音読」です。国語科にとって「音読は命」です。今野先生の教室では多くの子どもが進んで音読をしていました。その中でも私は、緑のベストを着ていたお子さんの音読が素敵だなあと感じました。言葉を食べるようにとつとつと読む、読むというより読んで体の中に入れて読む読みでした。聞いているこちらにも体にしみいってきました。あとでお聞きすると言葉に少し困難をもっていらっしゃるとのこと。だからこそ言葉を大事にしているんだと納得しました。早く読んだり流暢に読んだりの音読では、言葉は入ってきません。読みは「読身」であってほしいと改めて感じました。

竹田先生とは今回初めてお目にかかりました。参加者の多くの方が感じられたと思いますが、本当に「熱い先生」ですね。小牧で学び合う学びを始めたころも、竹田先生の学校のように、毎日みんなで議論したり、学び合いを理論化したりしてしていました。あの頃の情熱が懐かしいと思った参加者はきっと私だけではなかったのでは？生徒が変わり先生が変わり学校が変わっていくのが面白くて仕方がない時期なのだと思います。私たちも経験させていただきました。倉知校長先生の元で・・・あれから20年近い時が経ち、あの時の仲間皆、還暦に近い（越した人も多い・・・）年になっています。それでもこの会のようなところに参加して学び続けています。流行や社会情勢に左右されない本物の教育＝学び合う学びだと心の底から思えるからこそ、続くのだと思います。竹田先生の同僚もきっとそうなられることでしょう。

長く続けてきたからこそ今思っていることを書かせてください。続けていくうちに、本当の意味で「形ではない」ということにも段々と気づいて来た気がします。「一人残らず学びを保障する」「わからないと言う」・・・それがどういうことかを実感できたのは最近になってからのように思います。（まだまだこの先、いやわかってなかったなと思う時が来るかもしれませんが・・・）一人ひとりの子どもの背景、抱えている困難、可能性・・・私たちはそういう一人ひとりの子どもを、その子のエピソードでいかに語れるか。とりわけ苦しみの大きい子どもたちのそれをどこまで見守れているか、それが「子どもを見る」ということだと思えるのです。さらに、最近特に大切にしたいと思っているのは、「子どもが自分で自分をマネジメントしていく」

ことです。私は野球が好きです。ジャイアンツのピッチングコーチである桑田真澄さんは、言います。「僕は選手を育てようとか力をつけようとかは思わない。選手自身が自分で自分のピッチングをどうしていくかという自己マネジメント力が大切なのであって、僕はそれに寄り添いたい。」と。学校教育も同じです。「学び合う学び」で大切なのは、そこではないかと今は思っています。

4月からの学級経営、授業にむけて、とても意欲が高まりました。

「目指して、やって、確かめて」P D C Aサイクルを子どもにわかりやすい言葉に変換して伝えることが、素敵だと思いました。

そこに、子どもを思う心があふれていると感じました。

子どもたちの興味を大切にすること、知りたい・学びたいという思い、そして、仲間を大切にしたいという想いをみんなで大にする。これがみんな（教師・生徒）に広がっていくといいな、と改めて強く感じました。

ひとりでの学びには限界があり、それをペア、グループそしてみんなで越えていけるような学級、学習集団をつくっていきたいです。そのためにもペアの関係づくりを大切にしたいです。それは、学級経営だけでなく、授業を通して作っていただけると思うので、今日学んだことを来年度の実践に活かしていきます。ありがとうございました。

いろいろな本などを読んで勉強しても、なかなか身に染みてこない。今日のように、実際に話を聴くことで、一つひとつが身に染みてきます。

「わからない」と言えるようにしよう。簡単なことではないですが、子どもを大切に思う気持ちがあれば、実現するのではと希望のもてるセミナーでした。

また、同じグループの先生の生の声も、大変勉強になりました。「ねえ、教えて」が大切だと価値づけることをこころがけながら4月からがんばりたいと思います。

今野先生、竹田先生そして倉知先生、本日はありがとうございました。

日々の実践の中に、学びがあります。その学びが、次の学びを生み出していく。その面白さを、今日も味わうことができました。

今野先生の実践発表は非常に強く心に残りました。本校にも、指導の難しい学級があって、担任はもとより、私自身も頭を悩ませてきたのですが、あの授業ビデオの中に、いくつもの大きなヒントがあったことに、改めて気づきました。

もっと早く、こうした機会にふれて、実践に活かしていくべきだと反省しています。学び合いの可能性は十分に理解しているつもりでも、まだまだ及ばないところがあることを痛感しました。

竹田先生の発表を見せていただき、小牧市の応時中学校に勤務していたころを思い出していました。当時、経験は少なくとも、可能性を感じながら、何とか実践の中で学校を変えていこうと、私たちも藻掻いていましたが、竹田先生の熱い想いから、もう一度こうしたバイタリティを小牧市の中でも大切にしていけたらと強く感じました。ありがとうございました。

小学校、中学校それぞれの学び合う姿を見せていただき、ありがとうございました。

R3年9月より、探究・協同の学びを開始しました本校としては、とても参考になりました。二人ペアであっても対面にするのか、並んで座るのか、斜めに配置するのかが、中学校でも十

分応用可能な学びの形態であると感じました。

中学の実践では、中3の小集団が見事であったと思いました。手前左の男子が一方的に聴くだけでなく、確認し双方向にやり取りをしたので、それを見て「あっ、わかった」という子がいました。また、自分がインプットしたことを隣の女子にアウトプットしていました。四人からいろんな入力・出力の構図があり、学び合いに迫っていると感じました。

「ねらい」－「課題化」が、とにかく「学び合い」には大切であり、生徒のつかみも基盤になっていると感じました。

二つの発表を聴き、小中それぞれ子どもたちをよく知り、子どもたちの状況に合わせたすばらしい実践が工夫されていることを知り、とても勇気づけられました。

このような実践がなされていることを知れば、同じようにやってみたいと思う同僚がたくさんいると思います。

教師にとって、希望になるような研修を行っていただきありがとうございました。

「聴くこと」の大切さが安心につながる。来年度、中学校2年生で、学級の人数も増える中、不安でイライラが増えると予想されるので、聴くことを4月から大切にしていきたいと思いました。

学級経営と教科経営が自分の中でなかなかつながらなかったですが、今回の話を聴き、二つを別に考えず、やっていかなければいけないと改めて感じました。

北風の声掛けでなく、太陽のような声掛けを、まずは自分からしていきます。

他の学校の先生と学びの交流ができたことは、大変貴重な機会でした。

二名の先生の実践を学べたことは、一緒に参加した三名の教師にも刺激になったと思います。

本日の学びについて、職場でも四人で交流したいと思います。

ベテランの今野先生、若手の竹田先生、お二人の先生から多くのことを学ばせていただきました。

- 子どもを見取る目を育てたい。
- 子どもに憧れられる大人（生き方）になりたい。
- 教師、いつ・いかなる時も学べる

次年度にむけて、心新たにスタートしようという気持ちになれました。ありがとうございました。

小学校の実践も中学校の実践も、とても勉強になりました。4月の学級開き、授業実践についても参考にしたい内容ばかりでした。学び合う学びについては、まだ不安の方が多いのですが、少しずつでも変化させていけるように頑張っていきたいと思います。本当にありがとうございました。

ご一緒のグループの方たちからも、とても勉強になるお話を聴くことができました。別の方の代理で出席をしましたが、来ることができてよかったです。

今野先生の子どものために教材を選び、手立てを工夫し、すべての子が安心して学べる場をつくられている姿に感動しました。

苦しむことが楽しいと思える先生方が増え、子どもたちの学びを支えることに、教師としての喜びが感じられる学校にしていきたいと思います。

しばらく現場を離れますが、いつも子どもたちのことを考えて頑張っていこうと目標をもつことができました。

みなさんが笑顔になれる学校を、変える場として飛び立ちます。

本日は、貴重なお話をありがとうございました。

四月からの学級経営、教科経営に早速、生かしていきたいと思います。各学年から一名ずつ参加できたので、それぞれが学年にも広め、学校全体で取り組めればよいなと思っています。

「安心感」のある環境をつくるのが、まず、大事だなと思います。関わり合いの中で、子どもたちが成長していけることを期待して取り組んでいきたいです。

いい学級、いい授業、いい学校ができていますね。今野先生の実践では、ペアが基本ですね。ここから、学びは始まります。

竹田先生、素晴らしい構想ですね。動画を見てみると教え合う側面が強いことも感じます。だからこそ、次年度への「課題」が課題です。ジャンプの学び、真正の学びが強調されているんですね。だからこそ、停滞ではなく、さらなる進歩が期待できます。(ちょっと上から目線ですみません)

今野先生の「多様で、動的な子どもの姿を見極め、学ばせる授業づくり」や竹田先生の「多種で、動的な生徒一人ひとりの成長と学びを高める学級づくり」を研修させていただきました。ありがとうございました。

今野先生のペア読みの実践、ペアの子どもたちの寄り添い、聴き合う姿に感動しました。

竹田先生の実践にあった四人グループの学び合う姿がとても自然体で、温かいかわりを感じました。

一人ひとりを大切にすることが、どれほど大切であるか、改めて考えさせられた一日となりました。また、学ぶ意味を考えさせた声掛けや実践がこれからも大切であると学びました。

一人ひとりが大切にされる学級・学校を目指してこれからも実践を頑張ります。

学ぶ機会をありがとうございました。

私自身、新任から6年が経ち、四月から新しい学校で再スタートをしていきます。

今日のセミナーでは、お二人の先生方から、生徒たちの一人ひとりの特徴を捉え、寄り添いその成長に関わっている実践を紹介していただき、とても勉強になりました。

まだまだ教員として、学ぶべきことがたくさんあるということに気づけて、ワクワクする気持ちを持つこともできました。ありがとうございました。

セミナーの内容は、実践報告が多くありがたかったです。ただ、一方的な説明が長く、退屈な面も多かったです。

話を落ち着いて聴くことが苦手な生徒が多くなってきているように感じるので、「人の話は最後まで聴き切る」ということを大切にしよう、四月から指導していきたい。

安心感を与えるために、どのような手立てを具体的にやっていけばいいのか、ということが少し見えてきたので、ありがたかった。

学級経営でも教科経営でもそうだが、すべてに対して意図的であるかどうか大切になってくることが、改めて分かった。聴き合うことができる学級・学校を目指していきたい。

四月から学級開き、授業開きを行う上で、大変に参考になりました。

個の自己実現を出口に、居心地のよいクラス、誰もが大切にされるクラスをつくっていきたいと思いました。

そのために、「めざして⇒やって⇒確かめて（見直して）」を繰り返していくことが重要であると思いました。

今年一年、いろいろな講師の先生方に教えていただき、心から感謝しています。今、オンラインがとても流行していますが、やはり対面は大切であると思いました。来年度も積極的に時間を見つけて参加したいと思います。よろしくお願いします。

ペア読みをさせたことがなく、今回初めて知りました。いつも音読は個人でさせているので、先生がおっしゃる通り、「目的のない音読はつまらない」というのは、今後に向けて変えていかなければいけないと感じました。

学び合いをはじめるために、まずは「聴く」ことを子どもたちの約束にさせていきたい。そのための手立てとして、ペア読みを取り入れていこうと思います。

今野先生、竹田先生お話をありがとうございました。

お二人のお話、実践を聴いて、四月から自分がどのように目標をもって取り組んでいこうかということを決めることができました。

自分も目標をもって変化し続ける一年にしたいと思います。